



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 加藤 賢三
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団環境技術部
 環境啓発チーム
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

「印旛沼をきれいにする活動」報告会

～ どうしたら印旛沼はきれいになるのか、体験から考えてみました～

夏休みに体験した「印旛沼をきれいにする活動」の報告会を、10月3日(日)佐倉市臼井田防災会館で行いました。参加者の中には、この体験活動を夏休みの自由研究として取り組んでくれた子ども達もいました。

川の水調べ、生き物調べ、ゴミ調べ等の体験活動を観察ノートに記入することを通して気づいたことを、個人でまとめたり、グループでまとめたりして河川ごとに報告しました。以下はその報告概要です。

<神崎川など>

神崎川に流れる小さな川に生き物がたくさんいるところを発見して、感激しました。印旛沼では、アオコの発生が多くみられました。手賀沼水系の調査も兼ねていますが、印旛沼水系も今後も調査を続けます。

<花輪川・新川など>

調査日を2回設けて調査しました。2日間共とても暑い日でしたが、3歳の子供から、小学生、中学生、大学生、エコマインド生、NPO 法人八千代オikosの参加がありました。花輪川は八千代市緑が丘の住宅・工場の暗渠が上流です。やがて桑納川、新川へと流れ印旛沼へと流れていきます。桑納川、新川の水質は悪い方です。桑納川、新川にはアオコが発生し、ナガエツルノゲイトウが繁茂しているところもありました。オikosの活動拠点の花輪川中流では、川に降りられる階段があり子供も大人もスジエビ、ザリガニとりにハッスルし楽しいひと時を過ごしました。郷土博物館では八千代市や印旛沼の歴史・暮らしを観ました。

<上手繰川>

佐倉市ガールスカウトの親子で参加しました。上手繰川の上流には四街道市の団地があります。途中から斜面林とたんぼの中を流れ新川、印旛沼へと流れています。その上流から中流の下志津橋までを調べました。上流のCODが13なのに下志津橋では8で、水の色も透明で匂いも感じられませんでした。ゴミは川の中にオートバイが捨てられ、土手にテレビなどの不法投棄があり、空き缶、ビニール袋などが川の中に少しありました。下志津橋は、水辺に親しむための工夫がしてあり、スジエビやトウヨシノボリ、メダカ、トウキョウダルマガエルなどたくさん生き物がいました。また水の中に足を入れると冷たくて気持ちよかったです。最後に上座浄水場も見学しました。感想として生き物がたくさんいるきれいな川になってほしい、そのためには水



を大切に使う事、汁物は残さないで食べるなど家でできることがあると思いました。

<鹿島川>

上流は千葉市の緑区(土気)から四街道市、佐倉市の田園を流れ印旛沼へと流れる川です。印旛沼に流れる川の中で水量が一番多く、水質も良い方の川です。今回は千葉市若葉区の谷当橋で調べました。川の周りには、ハグロトンボやシオカラトンボが飛び、川の中には魚影や、チラカゲロウの幼虫が見られました。またクロモ、アオウキクサなど水草が生えています。CODは7でした。ゴミとしてはペットボトル、コーヒー缶、など。残念なことに鹿島川は川の中に入れるところが無いことです。斜面林を保全することで湧水量が多くなることが印旛沼の水の浄化に役立つと思います。

<印旛沼>

カヌーに乗って西印旛沼から捷水路、北印旛沼へと調査しました。西印旛沼の水の色は緑色、透視度は13cm、CODは20くらいでした。捷水路では、カワセミをはじめ見て感動しました。北印旛沼には量10位の水草の塊がありました(ナガエツルノゲイトウでは?)。水の色は緑色でアオコがありました。透視度10cm、CODは15でした。これからも水調べの仲間を増やして調査し、印旛沼の水をきれいになりたいと思いました。

以上1チーム10分の短い報告でしたが、参加者の中に高校の先生が参加され、授業で環境のことを教えるためにもよい機会でしたとのことでした。

最後に活動に参加していただいた方全員に「参加・体験賞」を代表より手渡されました。(文責：広報部)

「印旛沼再生に係る市民・NPO 意見交換会」開催

桑波田 和子

11月10日(水)佐倉市立中央公民館にて、午後1時～5時まで、印旛沼において初めて、印旛沼流域水循環健全化会議主催の市民・NPO 意見交換会が開催されました。それは今年の2月に、恵み豊かな印旛沼の再生を目指し、実行に移すため、「印旛沼流域水循環健全化会議 緊急行動計画」が策定され報告会がありました。その中の印旛沼方式で進める緊急行動計画の5本柱の中の、「みためし計画」「住民と共に進める計画」などを受けて今回意見交換会の開催となりました。また4月に印旛沼流域において環境保全活動を行っている団体に活動内容を把握するためのアンケート調査も実施されました。意見交換会の主催者側の目的は、

緊急行動計画の目的と内容についてご理解いただき、緊急行動計画についてのご意見をいただく
緊急行動計画に反映させるため、市民・NPO ができる具体的な行動を提案していただく
市民・NPO・流域市町村・千葉県などが活動の連携をはかり、流域全体で一体となって印旛沼再生に取り組んでいく契機とする

となっています。今後の展開として、今回の意見交換会でいただいた意見・提案は印旛沼健全化会議に報告し、今後も意見交換会を開催して行く事が確認されました。

当日は平日にもかかわらず約240名近くの参加者がありました。行政サイドの参加者には印旛沼流域15市町村の関係各課、県からは県土整備部始め、農林水産部、環境政策部、NPO 活動推進課など横断的に参加され、あくまでも市民・NPOの意見を聞くとの事で、オブザーバーに徹していました。

まず、全体会で趣旨説明があり、緊急行動計画書の説明の後、5つの分科会(1.印旛沼・河川、2.里山・谷津・湧水・農業、3.市民実践、4.景観親水、5.地域活性化)ごとの話し合いになりました。

分科会長はNPOの委員が担当し学識者、専門家も加り、印旛沼再生に向けての意見が活発に行われました。



私が参加した里山分科会では、印旛沼の水の浄化のためには、「いかに里山を保存できるか?」「どのような具体策があるか?」そこには地権者、市民、行政との連携が必要であること。エコ農業を推し進めることで硝酸性窒素を減らせる方向にいく事、「冬期湛水について」などの意見が出ました。また、広く市民に印旛沼にもっと関心を持ってもらう為にも「ここから印旛沼まで何km」の看板が必要との提案がありました。

分科会のあと全体討論会があり、分科会報告や環境教育の場としての印旛沼、またフロアーからの意見など75分の短い時間でしたが、活発な意見交換会となりました。

飲み水として使われている湖沼の中でワースト1の印旛沼。印旛沼再生に向けて流域全体の問題として取り組むために、市民・NPO・行政・企業・地権者などの連携が本気で必要とされていると思います。その中で今回の取り組みは遅いかもしれませんが、大きな一歩と考え、これからの展開を期待したいと思っています。

大盛況だった

10回目の環境シンポジウム千葉会議

広田 由紀江

11月14日、日大生産工学部にて、環境シンポジウム2004千葉会議の全体会が行われました。今年は10年の記念ということで、各分科会を9月それぞれの日程と場所で行い、まとめとして11月に全体会を行うという形をとりました。9月5日の「ごみ」分科会を皮切りに、シンポジウム初の宿泊日程で行った「環境学習」分科会など、9月中はそれぞれの特色を生かした分科会が毎週のように開催されました。全体会では、根津健浩氏による和太鼓の演奏で幕開けと

なり、横須賀実行委員長と大谷日大生産工学部長の挨拶があり、

その後大槻副知事による基調講演が行われました。大槻副知事の講演は、千葉県の里山や廃棄物の問題をわかりやすく説明していて、大変好評でし





た。千葉大学
インドネシア
留学生による
アンクルンの
演奏では、竹
で作られた楽
器「アンクル
ン」に驚くと
共に、ほのぼ
のとした音色
を楽しむ楽し

いひとときを過ごしました。各分科会の報告は、1分科会20分間の時間を十分に活用して、分科会には参

加出来なかった人たちにもわかりやすく報告されました。その後各分科会よりパネリストが出て、パネルディスカッションが開催されました。これは、各分科会の報告の際に配布した質問用紙を基に討論が行われたもので、木田環境シンポジウム千葉会議副実行委員長のコーディネートにより、シンポジウムメインテーマ「地球のあしたに向けて千葉からアクションを！」実現に向けての討論は、大変盛り上がるものとなりました。そして、パネルディスカッションでの意見も盛り込んで、「環境シンポジウム2004千葉会議からの宣言文」が採択され、拍手による賛成を得ました。今後、この提案が活かされることが期待されます。

最悪ベースの風水害、震災に思う

異常が普通に

ほっておけない

-

高橋 晴雄

台風上陸11回、大型、本土を縦断

普通(例年)なら年3回なのに、今年は11回も日本に上陸した。被害もまた並ではなかった。風、雨、高潮、波浪が時に複合し、それに地震が加わった。

台風直後に発生した新潟中越地震は、山崩れや土石流が道路を寸断し、56の集落を孤立させ、多くの市町村にまたがって家々を壊し、命を奪い、産業や文化を破壊したのである。

今なお多くが避難生活を送っている。終わりの見えない不安にさいなまされていると思うと気の毒でならない。これを機に人々と政治の力で日本を助け合い社会にする契機にしたい。出来る事で力をあわせたい。

さて、この異常さは過去数十年の経験から外れた気象のなせる業であったのだろうか。地球規模での温暖化が台風の発生に大きな影響を与えてはいないか。今年の異常気象は、アメリカ西部に5年連続の旱魃をもたらす一方、中国南部に豪雨をもたらし、ドイツ南部の山に7月の積雪と、ウイグルに46度の高温を記録させ、インドやバングラディッシュに豪雨が、ペルーにマイナス30度の寒波をもたらすなど、今夏の異常気象はきわだったものとなっている。しかし、この異常さは地球温暖化による氷河の後退、氷河の後退を引き金とする海流そして気流の変化によって準備され、約束されたものであったという説がある。台風のエネルギー源となる積乱雲の赤道付近での大きな発生にも関わっている。

もしそうだとすれば、今年の台風の異常さに見られる気象異常は「普通」になっていくことになる。

そこで、地球温暖化がどうして起きているのか。自然サイクルのものなのか。人為的要因のものなのか。その因果関係の解明は難しいが、二酸化炭素の排出などによる温暖化が要因とされ、その削減を取り決めた

京都議定書が取り交わされた。ようやくロシアが批准する見通しとなり、2005年に発効する。問題は日本とアメリカだ。日本は既に削減ではなく7%増加させ、削減約束の6%を加えると1990年対比13%を削減しなければならないという。アメリカは、化石燃料の一番の多消費国にも関わらず、アメリカ経済に悪影響を与えるとして拒否の姿勢を崩していない。地球温暖化は人類に大きな影響を与える(例えば2100年に海拔88cm上昇する。そのもたらすものは甚大だ)ことを考えるとアメリカの単独行動は人類に背いたものといってよい。国際的批判を受けて当然なのだ。今ではその大儀が喪失したイラクへの派兵も、実は化石燃料(石油)が目的であったとする、ヨーロッパを中心とする批判を成立させている。いずれにしても、地球温暖化の打開の方向をどう作っていくか、人類史的に言えば待ったなしの緊急課題なのである。

それにしてもどうしたらよいだろうか。自らにひきつけて、それぞれに知恵を集め、未来の世代への責任を遂行しなければと思う。

それは、我々が、「もっと病」という重い病気を治すことではないか。もっと物を、もっと金を、もっと地位を、誰よりも多く、どこよりも早く、といった排他的な競争病を治すことでなければならない。つまり、大量生産、大量消費の経済社会が、国内外の環境と人間の破壊を伴っていたことへのきづきであろう。

このことに気づかされたのは、実は阪神大震災時であった。日々の生活が一瞬にして災害で断ち切られたときに、人は一人だけでは生きていけないことをいやというほど思い知らされる。優しさや、ぬくもりや支えあいが、いかに大切か、体に入ってくる。災害時は確かに異常だ。しかし普段のほうがるかに異常だとも思う。競争社会の普段が実は人間や環境を破壊しているから。逆に異常時に人間的協同に目覚める。しか

し実際をよくみると普段の生活にこそ（協同）の姿があるのだからこれに素直に従った社会づくりができないわけではない。

9 2 時間、岩石と自動車の間に閉じ込められた優太ちゃんが救出されたときに、示されたちっちゃな命の

尊厳への感動。一人の子ども、一人の人間の命を愛し慈しむ気持ちが人々から失われない限り、大きな岩（時代の壁）を取り除くことが出来ると多くの人が思ったことだろう。

ちば里山センター設立

団体等70会員を超す

05年1/23・午後
市原市市民会館で
加藤登紀子さん招き
フォーラム(入場無料)

発想の原点



大槻副知事と発起人の方々

16年度の主な活動内容

平成16年9月17日、袖ヶ浦市長浦にある県有施設内に「ちば里山センター」が設立されました。（内房線長浦駅から木更津市より徒歩7分）

このセンターは、森の手入れや谷津田環境の改善、水質の浄化、炭焼き、自然観察、環境学習、心身の健康づくりなどに取組む18の里山活動団体が連携して組織したものです。

ここ数年、多くの里山活動団体が生まれ、それぞれ積極的に活動しています。しかし、まだ、各団体の守備範囲はそう広いものではありません。

また、土地所有者の信頼や社会的認知も十分とはいえません。さらに、社会システムや政策面でも取組むべき課題が少なくありませんが、それらに対する発言力も貧弱です。

これらの問題に対して、個々の団体で対応するには限界があります。

多くの活動団体とネットワークを組み、さらに賛助していただける方々の力もお借りして、より大きな力にしようというのが、ちば里山センターの発想の原点です。

本年度は、団体を設立した初年度であることから、会員の募集、情報の収集等組織の基盤固めに重点を置き、里山活動団体間等のネットワークの構築、里山に関する情報の発信等を行います。

また、活動団体間の情報の交換や共有、交流と併せて、広く県民の方々や企業の皆さんにも、里山及びその活動への関心や理解を深めていただくため、フォーラムの開催や里山1日活動体験などを実施するほか、活動の多様化や技術の向上を目指し、巡回による助言や指導、研修会の開催なども実施します。

詳しいことを知りたい方は、下記のホームページまたは、当センター発行の「ちば里山新聞」をご覧ください。

センターへの加入・お問合せ

ちば里山センター事務局
〒299-0265
袖ヶ浦市長浦拓2号580-148
電話：0438-62-8895
FAX：0438-62-8895
メール：info@chiba-satoyama.net
公開URL：<http://www.chiba-satoyama.net>

喫煙は、乳幼児虐待

～たばこの被害から、子どもを守ろう！～

国連支援交流協会・流山支部 時任 きよ子

去る、9月26日南流山センターで、「国連支援交流協会・流山支部」と「女性・子ども・命・未来」を守る会の主催で、第10回たばこ健康セミナーを開催致しました。流山市は、公共施設全面禁煙を佐賀市に次いで全国で二番目に実施しているので、第10回目の大会を記念に、流山で是非と選ばれて行いました。講演に先立って、たばこ健康についての街頭アンケートを平和台駅前で行いました。市民のたばこ健康についての意識が高く、積極的に協力していただきました。昨年、健康増進法が制定されてから、分煙の項目も出来、受動喫煙の予防策も進められてきました。



当日は、来賓挨拶での井崎義治市長は、喫煙者もたばこの被害者なのだから、愛情をもって声をかけて「愛する人を、たばこの害から守っていく社会にしましょう。」と述べ、その後、講師である日本禁煙推進医師連盟幹事・医学博士の斉藤麗子氏が、現場のデータなどを公開し、身体的な虐待や性的虐待、ネグレクト、心理的虐待と同様、子どもの

周囲での喫煙は乳幼児虐待であると主張し、又たばこには、依存性があり3000種類の化学物質と60種類の発ガン性物質を吸い込んで



いる。喫煙者は、ニコチンによって動かされているのであって、たばこの被害者であることを強調し、みんなで助け合える社会にしていましょと、呼びかけました。第二部として、コーラス「コール白樺」18人のメンバーによる爽やかなハーモニーで、心豊かなときを過ごし、フィナーレでは「イツ・ア・スモール・ワールド」を会場全員が立ち上がり手話コーラスを行い“世界は1つ”の感を覚えました。喫煙コーナーやチャリティバザー等では、地域の皆さんとの交流を楽しみ、お買い物をして途上国の人々を支援する“フェアトレード”で、小さな国際貢献が出来ささやかですが収益金は、流山市の福祉基金に寄付させていただきました。これからも、地域の皆さんとの交流を通して、平和の文化を築いていきたいと思っています。来年は、流山支部発足から5周年になりますので、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

NPO活動にも影響が大きい地方自治体の指定管理者制度の導入

NPO法人千葉まちづくりサポートセンター
副代表 栗原裕治

指定管理者制度は、一般的には民間市場拡大のための規制緩和政策の一つと捉えられてきた。これまでの公の施設の民間管理は公共的団体（例えば、地方自治体が出資している財団法人、社会福祉法人など）への委託管理に限られてきたが、その制約が取り払われ、営利企業もNPOも管理者になれることになった。この制度が制定された背景には、行財政の合理化の必要性や行政サービスの拡大やサービス向上のニーズがある。そこで民間に任せるのであれば、料金の設定などの権限も含めての管理を代行させることになった。

法律（改正地方自治法）が施行された昨年9月2日以降にできる新しい公の施設は、指定管理者による管理代行か、行政の直轄管理かの二者択一となった。既存の公の施設については二者択一まで3年（2006年9月1日まで）の猶予期間が与えられた。

この法律は全ての都道府県及び市町村に適用されるが、千葉市を例に考えてみよう。千葉市では、都市

公園法や学校教育法など、国の他の法律の規定で指定管理者制度が適用できない施設を除くと、51種300を超える施設が、指定管理者制度の対象になる。これら施設の一部は、文化センターや市民会館が文化振興財団、児童福祉センターやハーモニープラザが社会福祉事業団、市民住宅が住宅供給公社という具合に、29種約100を超える施設を公共的団体が委託管理しており、その他の公の施設は、千葉市が直轄管理している。こうした公共的団体が委託管理している施設は全て2006年9月1日までに指定管理者制度が適用される。

指定管理者制度に移行するには、現在の公の施設の設置条例を議会が改正し、その条例に基づいて行政が指定管理者を選考し、指定管理者の決定に更に議会の承認が必要である。千葉市は会計年度等との関係から、2006年4月1日から指定管理者制度に移行する方針を掲げていて、来年の9月議会での設置条例改正が

ぎりぎりのスケジュールとなっている。他の市町村もほぼ同じ方針であろう。また、公民館、図書館、コミュニティセンターのような行政が直轄管理している公の施設についても、国は導入の期限を特に定めていないが、可能な施設から徐々に指定管理者制度に移行する予定である。

これまでこうした法律の改正にあたっては、国が教科書的な対応方法をこと細かに用意していたが、地方分権ということになって、国は「法律はつくった。主旨も説明した。どのように対処するかは地方で考えなさい。」と言っている。約3000の自治体が画一的な動きをしないのは、こうした国の方針に原因がある。指定管理者制度は、分かりにくい制度である。例えば、行政は「指定は行政処分の一部であり、行政と指定管理者の関係は、契約の関係ではなく協定の関係である」と形式的な説明をしているが、指定管理者の選定プロセス、協定の内容、指定管理者の事業評価等について

実質的な説明や情報開示が少ない。また、公の施設の管理・運営の適切な評価を行い、その情報を市民と行政が共有するようであれば、適切な指定管理者制度への移行は困難と思われる。

市民が指定管理者制度に関心を持たないと、有料化や管理システムの変更等による市民へのサービスの実質的な低下なども懸念される。また、特定の営利企業や公共の団体だけに都合がよく、NPOが安価な行政の下請けを押し付けられる制度になるかもしれない。自治体運営への市民参加が重要といわれる現在、市民が市民のためのサービスの担い手にもなりえる市民生活に非常に密着した制度でもあることから、市民側にも自主的な学習会や行政との意見交換会の開催が求められる。

事業者でない者が実施する環境影響調査 PCB 処理施設・住民アセス実行委員準備会

PCB 処理施設・住民アセス準備会
世話人 仲西 美佐子他一同

沖縄のように開発行為が次々と進み、関心の薄いものなど見過ごされてしまいがちです。又、新たな工事ではない「後始末」など、なかなか中央の目には止まりません。けれども後始末ももう一つの開発行為なのです。

1995年恩納村の返還軍用地跡から大量のPCB汚泥が発見されて10年になります。なぜか今、「恩納村で恩納村だけのPCBを処理する」というのです。小さな処理施設（規模が不明）のために環境アセスの必要性などないのかも知れません。このようなことにとどの様に対処すればいいのでしょうか。（適切なアドバイスをお願いします）

処理施設が造られようとしている場所は航空自衛隊恩納分屯基地です。処理水は近くを流れる「大港川」に排水の予定だそうです。この集落は早くから農業に見切りをつけ、土地改良などすることなく、幸いにして河岸も改修などもせず中南部で一番自然度の高い川として残っています。そのため多くの生き物が生息し、危惧種もかなりいます。

川口には「谷茶メー」と言う歌で知れている谷茶の浜が広がっています。

又、基地の北側の「赤間川」は屋嘉田潟原に流れ込みます。ここは私たちのフィールドでとても生物多様性に富んだすばらしい所です。恩納岳の豊かな水源と長い歴史を持つ干潟の特性として生物層が深く、50ヘ

クタールというやや同面積の5ヶ所の干潟（奄美大島から西表島）を比べて、貝類だけでもダントツに多く、ほぼ2倍の種が確認されています。（それは2000年の美砂の会の報告書にもまとめました）

そして環境省・日本の湿地500にも選ばれました。50haの小規模ではめずらしいといわれています。このような生物多様性に富む地域を守っていくためにも、又、将来の豊かさ保障するためにも、ここで技術の確立されていないPCB処理をさせないために、たとえ処理されるにしても最大限注意が払ってもらえるように「現状把握の調査」を始めたいと思います。

しかし、まだまだ実行委員会立ち上げの段階です、要請文案を作成いたしたいと思いますが、どのような調査項目が必要なかはわかりませんが大きくは下記を目安にしていきたいと思っています。

この文や交渉についても多くの方々の関心と力を貸して下さるようお願い致します。

1. PCB処理でどの様な状況が予測されるのか、事業者（防衛庁）が影響を予測し、調査をして、評価をするのは公平とは言えないと思います。
2. 住民自らが知る・住民独自の現状調査の必要性を提案したいと考えます。

エコサロン報告

「なぜ、いま環境ホルモンなのか」

10月のエコサロンは「環境ホルモンをもっとよく知ろう」との趣旨で、10月22日(金)10時~11時30分、千葉市中央コミュニティセンター講習室で行いました。講師は森 千里教授(千葉大学大学院医学研究院 環境生命学)。講演内容は『なぜ、いま環境ホルモンなのか一次世代環境健康学についてー：胎児の複合汚染~子宮内環境をどう守るか』でした。

森教授は今までの研究活動の流れ、想いをスライドを用いて語って下さいました。特に印象に残ったことは、1)環境ホルモンの体内蓄積、血液中の濃度を測定するには1検体何十万円もする。2)血液中の環境ホルモンを全て検査する事は不可能に近いので、代表的な物質を測れば、それで、各人の環境ホルモンのおおよその暴露量を知ることが出来る。このことから、多量の検体を調べることが出来、例えば、ダイオキシンや環境ホルモンの生体影響を正しく評価することが可能となるということでした。

公衆衛生学では、1950年代は水俣病(水銀)、1960年代はサリドマイド(子供のみ)、1990年代は環境ホルモン、21世紀は微量化学物質複合汚染という状況で、環境ホルモンなどの研究が、21世紀型の公衆衛生学(予防医学)いいかえれば未来世代の健康、に役立つという方向性が見えてきたと思います。

今年の環境パートナーシップちばの活動は印旛沼に関連にするものに力点が置かれています。印旛沼の水の安全性を考えると、ダイオキシンや環境ホルモンについて知ることは必須と思われる。

環境ホルモンは不妊や、ヒトの脳に及ぼす影響も否定できない状況にあるのかも知れません。このことは、持続可能な社会の実現を脅かす大きな要因になる可能性を秘めているものと思われる。

ダイオキシン問題など、冷静に客観的に現実を知ることから、始める必要があるのではないのでしょうか。環境問題をGNP、GDPなどの「金」から見るのではなく、「いのち」から見る必要があると思います。

お知らせコーナー

第2回 印旛沼再生行動大会

~ 恵の沼をふたたび ~

日時：平成17年1月20日(木)13:00~16:30

場所：佐倉市民音楽ホール

(佐倉市王子台、京成臼井駅 徒歩4分)

主催：千葉県印旛沼流域水循環健全化会議

内容：印旛沼再生行動大会と印旛沼環境フェアの2部構成

- ・市民・NPO意見交換会の内容発表
- ・印旛沼流域パネル展など。

問合せ先：千葉県県土整備部河川計画課

この、「いのち」を縮める「リスクファクター」を見る習慣をつけることにより、リスクコミュニケーションが可能になってきます。このリスクコミュニケーションのできる市民の輪を拡大し、パートナーシップで市民、企業、行政もリスクコミュニケーションに基づいたコンセンサス会議などが開かれるようになって初めて、環境問題が世界標準、世界基準で語ることが出来るようになるものと思われます。

森教授は子どもと環境リスクの観点から、今年7月にNPOを自ら設立されました。千葉大学は今年から、「次世代環境健康学プロジェクト」に乗り出し、「環境予防医学」の確立を目指しています。生活環境からの有害物質の摂取を極力排除するのが目的で、情報を市民にわかりやすく伝える手段や人材教育も行うそうです。看護師、薬剤師、教師などの資格を持つ市民を対象に、「環境健康トランスレーター」として育成する方向です。

ちなみに、森教授は森鷗外の曾孫に当たるそうです。

「里山フォーラム IN ちば」

テーマ

「みんなの力で未来に継承(つな)ぐ千葉の里山」

日時：平成17年1月23日(日)13:00~16:00

場所：市原市市民会館(市原市役所そば)

(JR五井駅東口から会場まで送迎バス運行)

参加費：無料

主催：「里山フォーラム IN ちば」実行委員会
(千葉里山センター、(社)千葉県緑化推進委員会、

千葉県、市原市)

内容：・加藤登紀子さん、知事との対談

・里山活動団体事例発表・展示

・「千葉ブランド」产品展示、販売など

「地球にやさしい化石燃料利用のエネルギーシステムを考える」

~ CO2 隔離システムの統合 ~

日時：平成17年2月19日(土)

PM2:00~3:00

会場：千葉市生涯学習センター 大研修室

講師：岡崎 健 氏 ・東京工業大学大学院
理工学研究科教授

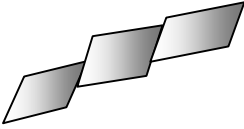
主催：ストップ地球温暖化千葉推進会議

定員：80名 参加費：無料

申込：氏名・住所・tel & fax を事務局 内野まで

tel & fax 043-232-9741

e-mail hideaki-u@hkg.odn.ne.jp



総務部より 運営委員会

7月の運営委員会

「印旛沼をきれいにする活動」の、準備会に変更。

8月の運営委員会(8/20)

報告・協議事項

- ・ 印旛沼環境基金(¥36,000円)決定。
活動内容は、花見川から印旛沼までをウォーキングしながら印旛沼を考える。
環境基金の報告会は2005年1月開催。
- ・ 8/21 「印旛沼をきれいにする活動」の印旛沼バスツアーについて、打ち合わせ。
- ・ 8/20 エコサロン開催
話題:「印旛沼水循環健全化計画 今後の課題と市民参加」
講師:三品 圭史氏
千葉県土整備部河川計画課 企画調整室 副主査
- ・ 新スタッフ紹介
広報部会 平山 明彦氏
書記 千葉 智雄氏
- ・ だより39号について検討

9月の運営委員会(9/17)

報告・協議事項

- ・ 8/21 「印旛沼バスツアー」の報告。
- ・ 8/8 幕張国際会議場で開催された「エコメッセちば2004」の報告。環パもブース参加。
- ・ 10/3「印旛沼をきれいにする活動」報告会について、協議。
- ・ だより39号の内容について再確認。
- ・ 10/22のエコサロンについて協議。

10月の運営委員会(10/22)

報告・協議事項

- ・ 10/22開催のエコサロン報告
話題:「なぜ、いま環境ホルモンなのか」
講師:森 千里氏
千葉大学大学院 医学研究院 環境生命学
- ・ 10/3「印旛沼をきれいにする活動報告会」の報告
- ・ だより40号の内容について協議

11月の運営委員会(11/26)

報告・協議事項

- ・ 11/14 「環境シンポジウム千葉会議2004全大会」開催。シンポジウム10周年記念の団体として感謝状を頂く。
- ・ 11/26 「印旛沼環境基金設立20周年記念式典」に、環境パートナーシップちばとして参加。
- ・ 印旛沼における環境学習について、ベイエフエム基金(30万円)の助成金決定。
- ・ 千葉大学校舎の利用について説明。
- ・ 千葉大学公共研究センターのセミナーについて、今後環パとしても協力していく。
- ・ 12/5の「花見川から新川を歩いてみませんか」開催についての打ち合わせ。
- ・ 1/28のエコサロンについて協議。
「環境と福祉」(予定)
- ・ 1/28 環パ新年会予定(運営委員会、エコサロン終了後開催)
- ・ 12/24 運営委員会開催予定
Am10:00~12:00(船橋フェイス)

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP: www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先: 千葉県環境財団 環境技術部
環境啓発チーム気付

TEL: 043-246-2180 FAX: 043-246-6969

会費納入先: 環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

千葉県環境財団環境技術部環境啓発チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		

